

[課題演習概要]

自己の生活課題を解決するための自主的・実践的な態度の育成
ーソーシャルスキルトレーニングを取り入れた学級活動(2)の指導を通してー

鳥 原 美 有

Miyu TORIHARA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
小学校教員免許状取得プログラム

(2023 年 1 月 10 日受理)

キーワード：自己の生活課題，ソーシャルスキルトレーニング，学級活動(2)

1 問題と目的

(1) 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説特別活動編(平成 29 年告示)には、学級活動(2) (以下、学活(2)) の指導において、社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れることが明記されている。学活(2)は、自己の生活課題を解決する方法を、意思決定とそれに基づく実践を行い、自己指導能力を育成する活動である。社会的スキルを身に付ける活動とは、ソーシャルスキルトレーニング (以下 SST) やピア・サポートプログラムなど心理教育プログラムであり、人間関係上の問題解決に役立つスキルの獲得に焦点を当てた教育プログラムである。本研究では、SST を取り入れた学活(2)の授業を通して、より良い人間関係を自主的、実践的に形成しようとする児童の育成を目的とする。

(2) 主題の意味

本研究における「自己の生活課題」とは、学活(2)の内容である、日常生活における基本的な生活習慣や人間関係の形成、健康や安全、望ましい食習慣の形成に関する課題のことである。「自己の生活課題を解決する」とは、学活(2)の学習で、解決したい生活課題を設定し、課題を解決するためのよりよい方法を意思決定し、意思決定した解決方法を実践し、実践を振り返り、新たな課題を発見することである。「自己の生活課題を解決するための自主的・実践的な態度の育成」とは、児童自身が自ら見つけた生活上の問題を自分自身の力で解決していこうとする態度を育成しようとするものである。

(3) 副主題の意味

「ソーシャルスキルトレーニング」とは、仲間関係においてトラブルを起こしやすい児童が適切な仲間とのやりとりを学ぶ社会的技能訓練のことである。(生徒指導提要, 2010)「ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた」とは、児童に身に付けさせたいスキルの定着に向け、学級で意見を出し合いながら話し合ったり、ロールプレイングを行ったりすることによって、スキルを獲得させていくことである。また、「ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた学級活動(2)の指導」とは、学活(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の「ア 基本的な生活習慣の形成」の内容で、SSTにより児童のできることを増やし、一人一人の基本的な生活習慣を形成する資質・能力の育成を目指すものである。

2 研究の計画

MS3 前期	研究構想, 先行研究分析 アンケート実施, 授業実践, 授業分析
MS3 後期	授業構想, アンケート実施, 授業実践, 授業分析, 研究のまとめ

3 研究の内容

〈実践 I〉

対象：A 市立 B 小学校 第 3 学年 C 組 29 名

学活(2)：「ア 基本的な生活習慣の形成」

題材名：「上手な話の聞き方」

ねらい：友達の話上手に聞くことの大切さに気付く、自分に合った聞き方を意思決定して実践することができる。

成果：自分に合った聞き方の方法を意思決定し、実践することができた。人の話を上手に聞くことの大切さや意義を実感できていた。

課題：相手の気持ちに合わせた対応をすることが難しかった。

〈実践Ⅱ〉

題材名：「聞き方スペシャリストになろう」

ねらい：相手の気持ちに合わせた聞き方を意思決定して実践することができる。

表1は、学活(2)の授業内容である。

表1 授業実践内容

段階	実践Ⅰ	実践Ⅱ
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイを見て自分たちの話の聞き方について話し合う。 ・ ロールプレイのような聞き方だったら友達の仲はどうなるかについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上手な聞き方をしている友達について調べたことを話し合う。 ・ あかめのうさちゃんについて復習する。 ・ もっと上手に聞くための方法を話し合う。
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> ・ よくない話の聞き方をしよう理由を話し合う。 (例) ・ めんどくさいから ・ 自分の話を聞いてほしいから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き方スペシャリストになるにはどんな方法があるか話し合う。 ◎ 聞き方ポイント② ≪しぐさ、顔の表情、声の大きさ、周りの様子≫SEL-8S (B6 他者の感情理解 「相手はどんな気持ち?」)
見付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上手な話の聞き方について話し合う。 ◎ 聞き方ポイント① ≪あいづちを打つ、体を向ける、目を見る、頷く、最後まで、話を聞く≫SEL-8S (B4 他者の感情理解「しっかり聞こう」) ・ 上記の方法を試す場を設定し、聞き方のコツを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き方ポイント②を意識しながらロールプレイングを行い、相手の気持ちを考えながら話を聞くコツを考える。
決める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いから、自分に合った解決方法を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いから、自分に合った解決方法を決める。

表Ⅰに示すように実践Ⅱでは、実践Ⅰを踏まえ、もっとよい話の聞き方とはどんな聞き方かについて話し合った。はじめは全く意見がでてこない様子だったが、次第に「話の内容に合わせて声掛けの仕方を変える」など、話す相手を意識した聞き方ポイント①がスタートした。そのため、児童から出た意見を踏まえ、聞き方ポイント②の相手の気持ちを知るヒントなどを提示し、聞くだけでなく、相手の気持ちを意識した聞き方の大切さについて

話し合った。実践Ⅱの意思決定は、聞き方ポイント①をもとに聞き方ポイント②から、自分が必要なものを選択し、意思決定することができていた。児童はポイントを意思決定するときに、自分に何が足りないのかを考え、自分に合った方法を組み合わせたり工夫したりしながら選択していた。実践後は、知識・技能の定着を図るためのテストを行った(表2)。特に、「話し手の気持ちについて」を問う問題の正解率が高く、自分の気持ちだけでなく、相手意識ももつことができていると分かる。

表2 テスト内容と平均点

ケース	平均(点)
①話の途中での対応の仕方 (1点)	0.8
②悩みを聞く場面での対応の仕方 (1点)	0.8
③(i)話し手の気持ちについて (2点)	1.9
(ii)そのときの対応の仕方 (2点)	1.9
④(i)相手の気持ちについて (2点)	1.9
(ii)適切な対応の仕方について (2点)	1.7

また、「これから友達の話をするときに気を付けたいこと、それに気を付けることでどんないいことがあるか」についての質問を行った。表3に示すように、今後気を付けたいことについては、聞き方ポイント①の内容から決めている児童が多かった。気を付ける理由については、相手のことも考えた記述が多かった。このことから、相手の気持ちに合わせた聞き方を意識することが出来ていることが分かる。

表3 質問に対する記述(抜粋)

【抽出児童A】
目を見て話す。自分も相手もうれしくなるから。
【抽出児童B】
目を見て、あいづちをうちながら聞く。ちゃんと聞いてくれると分かったら、友達ともっと仲良くなれるから。

4 成果と課題

【成果】 学活(2)の学習に SST を取り入れたことによって相手意識をもって話を聞こうとする自主的、実践的な態度が育った。

【課題】 知識をもつことはできたが、日常生活での実践に結び付けることができるかが、課題として残った。

主な引用・参考文献

- 小泉令三(2010) よく分かる生徒指導・キャリア教育 ミネルヴァ書房
 文部科学省(2017) 小学校学習指導要領解説特別活動編 東洋館出版社
 文部科学省(2010) 生徒指導提要 文部科学省